

年頭のご挨拶

鹿児島県栄養士会 会長 油田 幸子



謹んで 新年のご挨拶を申し上げます。

元旦、桜島からのご来光は、私たちに希望の力を与えてくれる自然からのプレゼント。たとえそれが雲に隠れていようと、その先を覗けば必ず太陽は輝いているのですから！

2024年は未曾有の天災・地災・人災が日本列島を襲い、大きな爪痕を残していきました。日本列島を舐めつくすように発生した度重なる災害は、鹿児島県もまた離島を中心に豪雨災害等に見舞われました。さらに温暖化の影響で米や野菜・果物の結実の時期が大きく変わり、生産量だけでなくその品質にまで影響を及ぼしていきました。その中で私たちは、人の命を守ることの大切さと厳しさを、そして生きることへの心の力を学びました。私たちは栄養・食の職能集団として、食の宝庫・鹿児島の地にありながら、生きることの原点は“食”にあるということ、改めて実感させられた思いがいたします。桜島という県民の大きな財産も、いつ起こるか分からない災害の種であることに間違いはありません。これからは健康増進・予防・重症化予防・治療だけでなく、災害時の食のプロフェッショナル育成もまた急務と考えて、積極的に取り組んで参ります。

令和6年度のトリプル改定では、医療・介護・障害福祉等、どのような場面であろうとも、健康増進は『より良い食（栄養）』がベースと謳われていると理解しています。高齢者人口の増加は避けられない現実です。健康寿命の延伸が大きな課題とされていますが、“食

の自立”がそのための一番の手立てです。もちろん同時に運動や睡眠・心のトレーニングなど、欠かせない日常はありますが、生きるために必要とする能力を全て含む作業が、“食の自立”です。食を楽しみ満足感を積み重ねることは、五臓六腑にフルに訴えかけることです。「感じる（空腹感）」「考える（食材・メニュー）」「動く（買い物・運ぶ・調理・盛り付け）」「平和（満足感・充実感・睡眠）」、この間にはいくつもの試行錯誤を繰り返します。それは当たり前の人生の財産の積み重ねです。1日の生活のリズムを作るのも“食”です。必要な運動も睡眠も感じる心も全て関連します。食事の準備を女性の役割と考えてきたからこそ、女性の方が長命なのかもしれません。人として生きるために欠かせない能力が「食の力」だと気づいてください。

新年を迎え日本をもっと健康にするために、日常の食の力を全ての皆さんの生活パターンに取り戻すことが、健康日本21に繋がる最も実践的な方法だと考えます。日本の栄養の歴史は、戦前・戦後の厳しい時代から現在の豊かさの溢れる現代まで、大きく変化してきました。ひもじさの中から豊かさへ変化した結果、栄養失調から時を経て過栄養・生活習慣病を生み出し、そして今、豊かさの弊害と自由な食生活の弊害が同居する栄養障害の二重負荷を生んでいます。こうした現状に私たち管理栄養士・栄養士は、率先して取り組まなければなりません。医療や介護、障害福祉などについては、医療の目をもって主治医の先生方の方針を十分に理解し対応できる、知識と技術の向上に努めてまいります。

そのためには、先生方からのご教示が欠かせない学びです。これからの健康行政のゴールである在宅医療は、医療という専門的な目と生活感を織り込み、実践できる可能性の有無を判断しつつ、進めなくてはなりません。今まで以上に多職種を取り込んだ連携の輪が、

大きな価値を持つようになると考えています。皆さまの力をお借りしながら、本年もまた一致団結頑張ってお参ります。

本年もまた、宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

謹賀新年

令和7年 元旦

鹿児島市医師会

事務局長	副議長	議長	顧問	監事	理事	副会長	会長													
中園	平川	有馬	猪鹿倉	鹿島	市来	昇	伊東	池田	福元	ウエレット	山元	今給黎	川上	堀	大勝	堂園光	帆北	長友	池田	上ノ町
豊明	信之	新一	忠彦	友義	健生	卓夫	祐久	琢哉	和彦	朋代	公恵	幸	雅之	剛	秀樹	一郎	修一	医継	耕治	仁

謹賀新年

令和7年 元旦

『鹿児島市医報』編集委員会

編集委員長	副編集委員長	編集委員	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
帆北	ウエレット	島田	寺口	角	森岡	今村	関根	帆北	ウエレット	島田	寺口	角	森岡	今村	関根	帆北	ウエレット	島田	寺口	角
修一	朋代	辰彦	博幸	純啓	康祐	直人	さおり	修一	朋代	辰彦	博幸	純啓	康祐	直人	さおり	修一	朋代	辰彦	博幸	純啓

